

柚のみち 号外

合併

20周年

記念史



JForest

東京都森林組合

目次

ご挨拶	2
祝 辞	4
東京都森林組合の概要	6
沿革と東京の森林の現況	6
組織図	7
管轄区内と事業所拠点	7
経営状況	8
主要事業	9
合併 20 周年のあゆみ	12
歴代の代表理事組合長	18
歴代の役員	19
20 周年記念式典開催	23
あとがき	26





合併 20 周年を迎えて

代表理事
組合長 **木村 康雄**

当東京都森林組合は、平成 14（2002）年 4 月 1 日に、「安定した林業経営体の構築を目的」に地元 6 市町村（八王子市、青梅市、あきる野市、日の出町、檜原村、奥多摩町）の森林組合が合併し、昨年の 4 月に節目の 20 年目を迎え、東京都を始め、多くの関係団体、総代、組合員の皆様方に支えられ、事業も順調に推移してまいりました。

その間、平成 29(2017)年 10 月には三宅村森林組合の解散により、単位組合が当組合のみとなることから東京都森林組合連合会は森林組合法の規定に従い解散を余儀なくされ、業務の一部を承継し、東京都唯一の森林組合となりました。

合併当時の主な事業は、緊急雇用対策事業、造林補助事業に加え、平成 14 年 10 月からスタートした環境局所管の森林再生事業が主な事業でありましたが、特に、森林再生事業の運用に関しては、関係する市町村と連携を図りつつ、「東京都森林組合市町村連絡協議会」を設置し、以来その運営強化に努めてまいりました。

その後、地球温暖化の進展や木材利用の減少等もあり、適正な森林循環が進まず、花粉症に悩まされる都民が増加したこともあり、スギ花粉症への対応策の一環として、東京都が主体となり、「スギ花粉発生源対策事業」が開始され、現在では「森林循環促進事業」と名称を替えて事業展開を継続しております。

また、山林所有者であります組合員の高齢化が年々進み、境界の不明な箇所が増加傾向にありますことから、境界を明確にし、集約して森林整備を効率的に行う、「森林経営効率化支援事業」も東京都の補助事業を活用して実施させていただいておりますのは、ご承知のとおりであります。

いずれにしましても、東京都や関係する市町村のご理解とご協力により今日の東京都森林組合が存在していると言っても過言ではありません。

これ迄の様々なご支援に対し、改めて感謝を申し上げます。

さて、我が国の森林・林業を取り巻く環境は、年々厳しくなりつつあり、森林環境譲与税の導入により変革期を迎えております。

その為にも、組合経営の体質強化も求められており、組合が保有している組合員の個人情報や組合の事業継続の観点から様々なデータを全国に先駆けてクラウド化を図ると共に、更なる機能強化に努めております。

更には、3年程前からは、様々な角度から各理事の皆さんからのご意見等を伺う場として、経営管理部会、木材利用部会、森林整備部会の3つの専門部会を立ち上げ、それぞれの部会を通じ、様々な課題や今後の方向性等についての意見交換を行い、経営の体質強化と情報の共有化を図っております。

また、コスト削減を目的にペーパーレス会議の実現に向けて検討をしまいましたが、昨年の4月からタブレット端末を活用し、理事会を初め三つの専門部会や内部会議等でスタートさせ業務の効率化と合理化に努めております。

一方、監事監査の充実に向け、監事の方々との連携を図り、年度毎に「監事監査計画書」を策定していただき、内部監査との連携を図りつつ、業務の適格性の向上に努めるとともに、業務範囲が多角的になるにつれ、監事監査、内部監査の重要性に着目して監査の充実にも力を入れております。

また、コロナ禍におけるウッドショックでの経験を踏まえ、安定した木材供給の必要性と施業の効率化の観点から、東京の森林に適合できる林業機械の導入が予定されていることに鑑み、その林業機械の利活用に向けての取り組みを東京都並びに東京都農林水産振興財団と連携し、実現に向けて取り組んでいるところであります。

更に、最近では、若い人たちが森林・林業への興味を持ち始め、インターシップへの応募が増加傾向にあり、今後の人材確保に希望が持てる状況に期待をしておりますが、若い人たちにとって、就業しやすい環境づくりの必要性を痛感しております。

以上のような、組合運営へのご理解を得て、私たちは、次の20年、30年に向けて更なる飛躍ができるよう努力をしまいる所存であります。

今後共、当組合の運営と各事業に対し、特段のご理解とご支援を切にお願い申し上げます。



祝 辞

東京都知事 小池百合子

東京都森林組合の合併 20 周年を、心よりお祝い申し上げます。

東京都森林組合は、平成 14（2002）年 4 月に、多摩地域の 6 市町村（八王子市・青梅市・あきる野市・日の出町・檜原村・奥多摩町）の森林組合が合併して、新たに設立されました。これまで 20 年にわたり、多摩地域の森林所有者の共同組織として、森林整備や林業振興を推進されています。

植栽、下刈、間伐等の森林施業、林業従事者の育成や林地の集約化による林業経営の強化、森林ボランティアの指導による協働の森づくりなど、東京の森林整備の中核を担われる皆様の御尽力に、深く敬意を表します。

東京の林業は、林業従事者の高齢化、所有や境界が不明な森林の存在など、依然として厳しい課題を抱えています。一方で、世界的に SDGS への関心が高まりをみせ、森林・林業、木材利用に関わる活動に注目が集まってきました。また、ウッドショック、ウクライナ情勢、円安の進行など、森林・林業を取り巻く社会情勢が急速に変化する中で、「東京の木 多摩産材」をはじめ、身近な資源である国産木材を利用する意義が再認識されています。

「治山治水」は、社会発展の土台でございます。豊かな森林は、土砂災害の防止や地球温暖化の緩和など、多面的な機能を有します。東京都は、先進的な林業技術の導入や、国産木材の需要拡大に向けた取組を加速させることで、森林の循環利用を促進し、安心・安全な東京の実現につなげてまいります。

東京都森林組合の皆様におかれましては、今後も地域の市町村等の関係機関と連携を深めながら、東京都と共に、森林・林業の発展に向けて一層の御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

このたびの合併 20 周年記念史の刊行は、東京都森林組合の多くの社会貢献について、広く都民の皆様にご覧いただく機会となることでしょうか。20 周年という節目を契機に、東京都森林組合がますます発展し、組合員の皆様が御活躍されることを祈念申し上げ、御祝いの言葉いたします。



合併 20 周年を祝して

全国森林組合連合会
代表 理 事 会 長 中 崎 和 久

この度、東京都森林組合が広域合併から 20 周年を迎えられましたことに、心よりお慶び申し上げます。

この間、経営理念「組合員・地域とともに、森林とともに」を体現された事業展開により森林・林業を発展されるとともに、平成 29 年には東京都森林組合連合会の事業を承継され、東京都全域の森林を守り育てる担い手として、首都の環境と暮らしを支え、森林所有者の経済的社会的地位の向上に貢献してこられました。

また、新型コロナウイルス感染症や混迷する世界情勢、これらに伴う物価の高騰や世界的な木材需給の変動など、森林組合系統の経営環境にも大きな影響が生じているところですが、2,500 森林組合員の皆様と共に事業活動の推進にご尽力いただいておりますことに敬意を表します。

さて、森林・林業を取り巻く情勢は、戦後造成された人工林が成熟期を迎える中、いわゆるウッドショックにより、国産材への転換の必要性が経済安全保障の観点から認知されたことに加え、頻発する大規模災害に対する防災・減災に向けての「緑の国土強靱化」や、温室効果ガスの実質排出ゼロに向けた「2050 年カーボンニュートラル」の実現など、森林の公益的機能の一層の発揮も強く求められています。

このため、森林資源の適正な管理・利用を通じ、森林・林業を持続的に発展させる「グリーン成長」の実現に向けた取組が極めて重要となっています。

こうした中、森林組合系統では、一昨年に決議した「JForest ビジョン 2030」に基づき、自治体と連携した森林管理体制の整備、循環型林業の確率と木材販売力の強化、高度な人材の確保・育成、組合員に信頼される組織体制の確立、国民生活及び SDGs への貢献を進めることとしており、地域森林の適切な利用・保全と林業経営のさらなる発展に向けた取組を全国各地で本格展開しているところです。

貴組合におかれましては、第四次中期経営計画「Active-50」を策定され、50 の個別課題の達成に取り組まれているところですが、貴組合が組合員の皆様との強固な信頼関係のもと、「JForest 森林組合要領」の精神に則り、全系統の模範として系統運動の推進に邁進され、必ずや改革の実を挙げられるものと考えております。

結びに、東京都の森林・林業の振興、貴組合並びに組合員の皆様の益々のご活躍とご発展を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

東京都森林組合の概要

沿革と東京の森林の現況

当組合は、平成 14（2002）年 4 月に地元 6 市町村（八王子市・青梅市・あきる野市・日の出町・檜原村・奥多摩町）の森林組合が合併して東京都森林組合となり、以来 20 年が経過いたしました。その間、平成 29（2017）年 10 月には東京都森林組合連合会を包括承継したことに伴い、東京都唯一の森林組合として、東京の森林・林業を守り育ててまいりました。

さて我が国の森林・林業を取り巻く環境は、様々な変革期を迎えています。平成 31（2019）年 4 月の「森林経営管理制度」の施行や、令和 3（2021）年 4 月の「森林組合法」の改正、さらには、「所有者不明土地問題」に対処するための「民法・不動産登記法」の改正による相続登記や住所変更登記の義務化が始まります。一方、世界的には SDG s（持続的な開発目標）達成へ向けた取り組みへの意識が醸成され始めています。

こうした中、当組合では、組合員との信頼関係をより一層強固なものにしつつ地域の特性を活かした森林整備を行うとともに、少子高齢化などの問題にも対処しうる経営基盤の強化を図るべく、新たな森林組合系統運動に呼応し、第四次中期経営計画「ACTIVE 50」（令和 3 年度～令和 7 年度）を策定し、様々な課題の達成に向け、役職員が一丸となって取り組んでまいります。

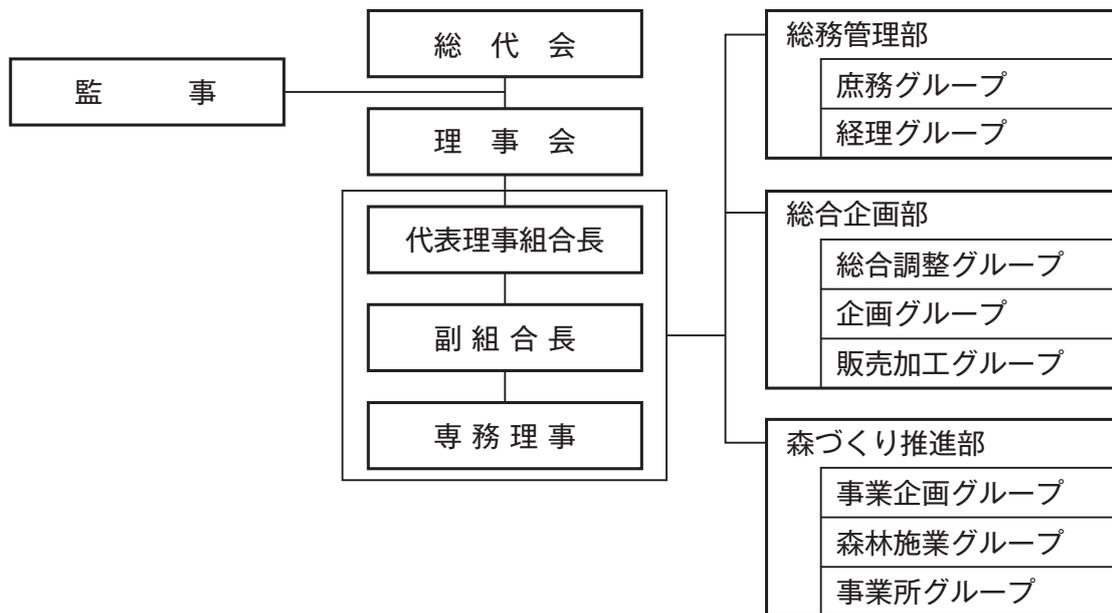
森林の現況

令和 3 年 4 月 1 日現在

市町村	国有林 (ha)	民有林 (ha)	計 (ha)	林野率 (%)
八王子市	1,182	6,651	7,833	42
青梅市		6,462	6,462	63
あきる野市		4,395	4,395	60
日の出町		1,904	1,904	68
檜原村		9,751	9,751	93
奥多摩町		21,167	21,167	94
上記計	1,182	50,330	51,512	70
その他		1,342	1,342	1
区部・多摩	1,182	51,671	52,853	30
伊豆諸島計	6,526	19,172	25,698	63
東京都合計	7,709	70,843	78,552	36

※各内訳と合計は四捨五入の関係で合わない場合があります。

組織図



管轄区内と事業所拠点



経営状況の推移

〈運営組織〉

(単位：千円)

項目	年度	平成 14 年度	平成 18 年度	平成 23 年度	平成 28 年度	令和 3 年度
組合員数 (人)		2,982	2,876	2,751	2,636	2,496
	正組合員	1,797	1,804	1,759	1,699	1,895
	准組合員	1,185	1,072	992	937	601
職員数 (人)		71	80	71	51	70
広義の自己資本		281,851	353,717	391,733	432,339	553,122
	出資金	154,016	150,556	148,318	137,157	132,710
	自己資本比率	34%	47%	42%	48%	52%
総収入源		1,190,293	734,343	1,218,953	882,752	1,033,420
	賦課金	7,127	6,850	6,241	9,445	6,014
	総収入に占める賦課金割合	0.60%	0.93%	0.51%	1.07%	0.58%

注) 平成 30 年度に組合員数の正・准の数値の見直しを実施。(合併時の登録において疑義が生じ、再確認したところ所有面積に齟齬が判明したため、正しい数値に戻したことによるもの。)

〈事業収益〉

(単位：千円)

項目	平成 14 年度	平成 18 年度	平成 23 年度	平成 28 年度	令和 3 年度
事業収益	1,190,293	734,343	1,218,953	882,752	1,033,420
事業費用	886,303	566,234	1,111,646	747,197	843,565
事業利益	303,990	168,109	107,307	135,555	189,855
事業管理費	244,139	146,500	102,129	137,550	153,050
事業収益	59,851	21,609	5,178	△ 1,995	36,805
事業外損益	2,040	2,190	△ 70	11,826	6,103
経常利益	61,891	23,799	5,108	9,831	42,908
特別損益	△ 10,592	1,155	△ 6,604	△ 742	△ 102
税引前利益	51,299	24,954	△ 1,496	9,089	42,806

主要事業

森林整備事業

森林経営計画

従来の森林施業計画に替わり、森林経営委託契約を締結します。

作業班単位で森林施業や作業道に関する計画を作成し、市町村長の認定を受ける制度です。

森林境界明確化支援事業

山林所有者の高齢化、世代交代、所有者の都外への転居の増加などによって森林境界の不明確化が加速しています。

森林の境界を明確にするため測量を行い、境界情報を保存管理することで施業の実施や集約化を促進します。

集約化施業・保育施業

国や都からの補助金を利用して、間伐をメインに下刈枝打等の森林整備を実施しています。



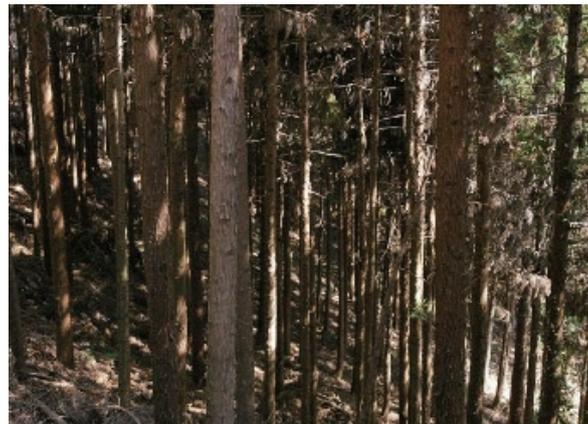
森林循環促進事業

スギ花粉発生源対策を再構築し、これまで進めてきた森林循環を継続して促進するとともに、花粉削減と多摩産材の安定供給を図ることとしています。



森林再生事業

手入れが遅れ、荒廃しているスギ・ヒノキ林を間伐し、森林の働きを再生させる事業です。



間伐前



間伐後

加工事業

「東京の木 多摩産材」(愛称:とうきょうの木)を、皆様の身近な場所でご利用いただけますよう、様々な製品に加工してお届けしています。



アーバンウッドレール (新宿区内)

高機能・高耐久の都市型デザインウッドレールです。鋼材内蔵により、地際部の耐久性に優れ、木部の交換が容易。勾配・曲がりも自在に対応可能です。



土木用材 (高尾山 木道階段)

人気のある登山道や都立公園内の木道などにも多摩産材を利用し、自然にマッチした安らぎの環境を提供しています。



内装用材 (庁舎、校舎)

壁、床、階段材などに組合製品を採用していただいております。

木の香りと温もりを感じていただける空間となりました。

合併 20 周年のあゆみ

平成 14 (2002) 年度

4 月 東京都森林組合が誕生

旧八王子市森林組合、青梅市森林組合、あきる野森林組合、日の出町森林組合、奥多摩町森林組合、檜原村森林組合の 6 森林組合が広域合併し、新たに東京都森林組合として発足
初代組合長に奥多摩町森林組合の小峰幸憲氏が就任
新たな森林計画（森林施業計画制度、森林整備地域活動支援交付金制度）がスタート

東京都森林組合市町村連絡協議会を発足

東京都森林組合と多摩地域 6 市町村の協調体制を強化するため、幹事を 6 市町村より選出し定期的に開催

9 月 東京都森林組合合併記念号（現・杣のみち）発行

11 月 第 1 回総代会

H14.11.16 あきる野ルピアホールにて合併後、初となる総代会を開催



平成 15 (2003) 年度

4 月 多摩川水源森林隊発足

水源林の森林保全を行うためのボランティア活動への指導業務を受託

「緑の雇用」開始

林業の労働力確保・促進を目的とした支援事業
翌年の春に研修生から 5 名を職員に採用

5 月 第 2 回総代会・役員改選（あきる野ルピアホール）

合併時 76 名の役員体制から 23 名体制変更

10 月 総代任期満了に伴う総代選挙

11 月 東京都森林組合 親睦旅行（群馬県水上）



平成 16 (2004) 年度

5 月 安全対策委員会（現・安全衛生委員会）発足

職員の安全確保と健康の保持増進を図る事を目的に設置

第 3 回総代会（あきる野のルピアホール）

2 月 「東京都森林組合改革プラン」策定

合併以降組合運営において主要事業のひとつであった緊急雇用対策事業の終了による経営への懸念等を見据え、自立的経営の確保、構築を目的に 5 年間を計画期間とした「東京都森林組合改革プラン」を策定

改革プランの主な内容は、事業の改革、経営体制の警備強化、財務会計等の整備、森林整備体制の整備等



平成 17 (2005) 年度

- 4月 高性能林業機械始動
プロセッサ、グラップル、スウィングヤーダを導入
- 5月 第4回総代会(東京都農林総合研究センター日の出庁舎)
- 7月 日の出町大久野から平井へ本所移転
- 10月 総代任期満了に伴う総代選挙



平成 18 (2006) 年度

- 4月 東部営業所八王子事務所移転
「タヤけ小やけふれあいの里」から「恩方農村環境改善センター」へ移転
スギ花粉発生源対策主伐事業の伐採・搬出開始
現在、「森林循環促進事業」と名称を変え、これまでに約230haの主伐作業を受託
- 5月 第5回総代会・役員改選(東京都森林組合 本所)



平成 19 (2007) 年度

- 4月 「みなと区民の森」受託事業開始
「地球温暖化防止のための植物の光合成による二酸化炭素固定」を主な目的に、みなと区民の森づくりが開始
林内作業路網作設技術導入
高知県大正町(当時)の森林組合に視察を実施するとともに、技術者を招聘し作設技術の習得を試行
- 5月 第6回総代会(東京都森林組合本所)



平成 20 (2008) 年度

- 5月 第7回総代会(東京都森林組合 本所)
第一次「中期経営計画」を策定
国による森林林業基本計画の策定や都の新規事業の開始等に伴い、東京都森林組合改革プランを見直し、新たに第一次中期経営計画を策定
「～MIRAIへ～変わろう、変えよう、挑戦しよう」を合言葉に、組合員のための組合づくりを基本理念とした平成22年度までの3カ年計画を樹立
- 6月 森林組合ソフトボール部
檜原村春の大会優勝
- 10月 総代任期満了に伴う総代選挙



平成 21 (2009) 年度

4月 第2期緊急雇用事業開始

失業者の増加に伴い、雇用機会を創出する目的で開始され、組合も事業を受託

5月 第8回総代会・役員改選(東京都森林組合 本所)

6月 チップ製造施設稼働開始

チップ製造施設が奥多摩事務所内に整備され、チップの試験製造と下水汚泥との燃焼試験を経て、本格的に稼働開始



平成 22 (2010) 年度

4月 提案型集約化施業 開始

あきる野市養沢の宝沢地区にて「森林の循環再生プロジェクト」として三ヵ年計画で提案型集約化施業の取組み開始
また、集約推進基盤整備(境界明確化事業)も併せて開始

5月 第9回総代会(東京都森林組合 本所)



平成 23 (2011) 年度

4月 第二次「中期経営計画」を策定

第一次中期経営計画を基盤とし、組合の目指すべき森林の姿として「組合員が木材・空気・水を供給しているという誇りが持てる森林」づくりをテーマに掲げる

計画期間中には、森林施業プランナーの育成、青梅事務所の閉鎖・本所との統合等を実施

5月 第10回総代会(東京都森林組合 本所)

3月 五日市青少年旅行村(キャンプ場)廃止

10月 総代任期満了に伴う総代選挙



平成 24 (2012) 年度

4月 「中央区の森(南郷地区)」受託事業開始

中央区と檜原村の協定の下、「現在の人工林を檜原村在来の自然豊かな森へ戻す(広葉樹林化)」をコンセプトとした森作りを目指し、組合が施業受託

5月 第11回総代会・役員改選(東京都森林組合 本所)



平成 25 (2013) 年度

5月 第12回総代会(東京都森林組合 本所)

9、10月 スポーツ祭 東京 2013 開催

9月28日～10月14日の17日間

味の素スタジアムにて開催

組合も納品に関わり、メイン会場内の様々な場所で多摩産材が活用される

3月 ファミリーロッジ五日市廃止



平成 26 (2014) 年度

5月 第13回総代会(東京都森林組合 本所)

7月 協力事業体に対する花粉対策事業下川の研修

植付け、下川の作業現場増加に伴い、(公財)東京都農林水産振興財団花粉対策室の協力の下、組合の協力事業体に向けた下川作業の研修を実施

10月 総代任期満了に伴う総代選挙



平成 27 (2015) 年度

5月 第14回総代会・役員改選(東京都森林組合 本所)

木村代表理事組合長 就任

10月 とうきょう林業サポート隊事業 開始

ボランティアによる多摩地域の森づくりサポートを目的とした事業であり、組合が作業指導等を受託

12月 ワーキンググループ報告会実施

第三次「中期経営計画」を策定するにあたり、職員によるワーキンググループを設置し、各部門ごとに現状認識・課題解決を検討後、報告会を実施

2月 「JINS」花粉対策メガネ寄贈式



平成 28 (2016) 年度

4月 第三次「中期経営計画」を策定

「組合員・地域と共に、森林とともに」のコンセプトのもと、「組合員サービスの向上」「持続可能な組合経営の確立」「信頼される業務執行体制の確立」を基本方針とし組合員や各地域のニーズに応えるため5年間の計画を樹立

クラウドシステムを導入

クラウドを活用し、業務受託管理から入出金など、業務の効率化を推進

5月 第15回総代会・定款変更(東京都森林組合 本所)



平成 29 (2017) 年度

6月 第16回総代会(東京都森林組合 本所)

東京都森林組合連合会の一部業務の包括継承が総代会で承認
平成29年3月に三宅村森林組合が解散し、東京都で唯一の森林組合となり、森林組合法の規定に基づき、平成29年10月に東京都森林組合連合会が解散することから、業務の一部を包括承継

全国で大阪府に続き二例目となる単組でありながら連合会の業務の一部を行う組合となる

9月 (一社) 東京都森林協会設立

10月 総代任期満了に伴う総代選挙



平成 30 (2018) 年度

5月 ドローンを活用した運搬の実証実験を実施

6月 第17回総代会・役員改選(東京都森林組合 本所)

11月 第42回全国育樹祭の東京都初開催

皇太子同妃両殿下がお使いになるお手入れ道具や式典会場の木製ベンチ等を製作

また、式典には多くの組合員、職員、協力事業体等が参加

12月 税務相談会を初開催

3月 JA 東京アグリパークにてイベント開催

組合が主催、14団体が参加し「東京の森林(やま)からの贈り物」をテーマに西多摩の名産品等を展示販売



令和元 (2019) 年度

6月 2019 協同組合フェスタ TOKYO 開催

加工製品の販売や積み木遊びコーナーを設置し多摩産材の普及を行う

第18回総代会(東京都森林組合 本所)

12月 法務・税務相談会を開催

この年から法務相談会も実施



令和 2 (2020) 年度

- 4月 スマート林業（ドローンの活用）への取り組み開始
- 7月 第19回総代会（東京都森林組合 本所）
書面決議を推奨し、コロナウイルス感染防止対策を講じて開催
- 10月 「杣のみち」創刊から50号を迎える
- 11月 東京都森林経営管理制度協議会が設立
東京都、八王子市、青梅市、あきる野市、日の出町、檜原村、奥多摩町、東京都森林組合が参画し協議会を設立
- 1月 臨時総代会・定款変更



令和 3 (2021) 年度

- 4月 第四次「中期経営計画」ACTIVE50を策定
森林組合を取り巻く50の課題解決に取り組む【ACTIVE50】
Action（行動）、Challenge（挑戦）、Target（目標）、
Information（情報）、Value（価値）、Education（教育）
- 5月 東京トレーニングフォレスト始動
架線搬出の技術者育成事業の指導・運営を受託
- 6月 第20回総代会・役員改選（東京都森林組合 本所）
書面決議を推奨し、コロナウイルス感染防止対策を講じて開催
- 12月 東京都素材生産組合 設立
「とうきょうの木」の安定供給等を目的に、多摩地域における素材生産を営む事業者が共に取り組むために設立



令和 4 (2022) 年度

- 4月 東京都森林組合合併20周年
組合ホームページを全面リニューアル
- 6月 第21回総代会（東京都森林組合 本所）
書面決議を推奨し、コロナウイルス感染防止対策を講じて開催



令和 5 (2023) 年度

- 4月 合併20周年記念式典・記念講演会を開催
- 6月 （一社）全国林業改良普及協会 主催
第56回林業関係広報コンクール表彰式(全国町村会館ホール)
東京都森林組合ホームページ
最優秀賞（林野庁長官賞）受賞
東京都森林組合ニュース 杣のみち
広報誌部門奨励賞受賞



歴代の代表理事組合長



初代組合長

こ みね ゆき のり
小 峰 幸 憲

在任期間：平成14(2002)年4月1日～
平成27(2015)年5月23日



第二代組合長

き むら やす お
木 村 康 雄

在任期間：平成27(2015)年5月23日～

平成27年5月25日 組合長交代式



歴代の役員

第1期(平成14年4月1日~平成15年5月24日)

理事

(敬称略・順不同)

職歴	氏名	職歴	氏名	職歴	氏名
代表理事組合長	小峰幸憲	理事	木崎昭夫	理事	野崎三永
副組合長	清水久巳	〃	栗原一雄	〃	野村隆
〃	小阪八郎	〃	甲野富雄	〃	野島勉
〃	黒山儀一郎	〃	小机篤	〃	橋本晃
〃	青木庸夫	〃	小林克	〃	馬場信一
専務理事	中島邦彦	〃	小林栄	〃	羽生峯子
理事	青木毅	〃	小林久夫	〃	原島智之
〃	阿部恒久	〃	小峰雅丘	〃	原信彦
〃	天野光紘	〃	小山宣一	〃	原島昭和
〃	新井尚男	〃	坂村重男	〃	原島晟治
〃	市川寿夫	〃	坂本甲	〃	土方重孝
〃	井上顕	〃	沢井邦夫	〃	菱山忠三郎
〃	井上茂	〃	清水幸一	〃	松崎光雄
〃	井上忠重	〃	清水俊夫	〃	松澤正治
〃	榎戸信幸	〃	嶋崎進	〃	峯尾栄
〃	遠藤和一	〃	志茂忠昭	〃	峯岸長吉
〃	大谷嘉兵衛	〃	下野照幸	〃	武藤明博
〃	奥平舜一	〃	杉田正雄	〃	本沢陽一郎
〃	尾崎幸久	〃	高鳥昇	〃	森田浩一
〃	小澤章	〃	武田章平	〃	守谷好太郎
〃	小澤潔	〃	田倉栄	〃	柳内良平
〃	小澤順一郎	〃	武田啓一	〃	山崎徳太郎
〃	小澤光雄	〃	田中一三	〃	山田成美
〃	小澤未明	〃	田中正美	〃	若林正樹
〃	乙訓孝男	〃	田中實		
〃	私市洋	〃	中山昌治		

監事

代表監事	市川徳壽	監事	原島友幸	監事	羽生卓史
監事	原武	監事	内倉邦夫	監事	牧野信

第2期(平成15年5月24日~平成18年5月27日)

理事

(敬称略・順不同)

職歴	氏名	職歴	氏名	職歴	氏名
代表理事組合長	小 峰 幸 憲	理事	柳 内 良 平	理事	青 木 庸 夫
副組合長	清 水 久 巳	〃	原 島 晟 治	〃	志 茂 忠 昭
〃	黒 山 儀一郎	〃	本 沢 陽一郎	〃	羽 生 峯 子
専務理事	中 島 邦 彦	〃	牧 野 信	〃	市 川 徳 壽
理事	小 机 篤	〃	尾 崎 幸 久	〃	大 谷 嘉兵衛
〃	中 山 昌 治	〃	小 阪 八 郎	〃	清 水 俊 夫
〃	小 澤 順一郎	〃	山 田 成 美		

監事

代表監事	原 武	監事	原島 友幸	監事	内倉 邦夫
------	-----	----	-------	----	-------

第3期(平成18年5月27日~平成21年5月30日)

理事

(敬称略・順不同)

職歴	氏名	職歴	氏名	職歴	氏名
代表理事組合長	小 峰 幸 憲	理事	青 木 庸 夫	理事	中 山 昌 治
副組合長	黒 山 儀一郎	〃	大 谷 嘉兵衛	〃	小 阪 八 郎
専務理事	清 水 久 巳	〃	志 茂 忠 昭	〃	米 山 佳 孝
理事	中 島 邦 彦	〃	清 水 俊 夫	〃	山 崎 靖 代
〃	小 澤 順一郎	〃	山 田 成 美	〃	栗 原 一 雄
〃	原 島 晟 治	〃	市 川 徳 壽	〃	木 村 康 雄
〃	羽 生 峯 子	〃	本 沢 陽一郎		

監事

代表監事	柳 内 良 平	監事	池 田 晴 美	監事	森 屋 洋一郎
------	---------	----	---------	----	---------

第4期(平成21年5月30日~平成24年5月26日)

理事

(敬称略・順不同)

職歴	氏名	職歴	氏名	職歴	氏名
代表理事組合長	小 峰 幸 憲	理事	小 澤 順一郎	理事	中 山 昌 治
副組合長	黒 山 儀一郎	〃	木 村 康 雄	〃	羽 生 峯 子
専務理事	清 水 久 巳	〃	栗 原 一 雄	〃	前 田 善一郎
理事	青 木 庸 夫	〃	坂 村 裕 之	〃	山 崎 靖 代
〃	市 川 徳 壽	〃	志 茂 忠 昭	〃	山 田 成 美
〃	大 谷 嘉兵衛	〃	中 島 邦 彦	〃	米 山 佳 孝

監事

代表監事	柳 内 良 平	監事	森 屋 洋一郎	監事	原 島 晟 治
------	---------	----	---------	----	---------

第5期(平成24年5月26日~平成27年5月23日)

理事

(敬称略・順不同)

職歴	氏名	職歴	氏名	職歴	氏名
代表理事組合長	小 峰 幸 憲	理事	栗 原 一 雄	理事	幡 野 芳 夫
副組合長	志 茂 忠 昭	〃	坂 村 裕 之	〃	羽 生 岳 史
専務理事	清 水 久 巳	〃	滝 島 克	〃	土 方 捷 宏
理事	青 木 庸 夫	〃	中 島 邦 彦	〃	前 田 善 一 郎
〃	大 谷 嘉 兵 衛	〃	野 崎 三 永	〃	山 崎 靖 代
〃	小 澤 順 一 郎	〃	野 島 勉	〃	米 山 佳 孝

監事

代表監事	森 屋 洋 一 郎	監事	小 峰 望 明	監事	柳 内 良 平
------	-----------	----	---------	----	---------

第6期(平成27年5月23日~平成30年6月25日)

理事

(敬称略・順不同)

職歴	氏名	職歴	氏名	職歴	氏名
代表理事組合長	木 村 康 雄	理事	米 山 佳 孝	理事	滝 島 克
副組合長	志 茂 忠 昭	〃	山 崎 靖 代	〃	野 島 勉
理事	青 木 庸 夫	〃	前 田 善 一 郎	〃	野 崎 三 永
〃	中 島 邦 彦	〃	坂 村 裕 之	〃	羽 生 岳 史
〃	小 澤 順 一 郎	〃	幡 野 芳 夫	〃	師 岡 宏 文
〃	栗 原 一 雄	〃	土 方 捷 宏	〃	井 上 佳 洋

監事

代表監事	森 屋 洋 一 郎	監事	小 峰 望 明	監事	高 橋 政 雄
------	-----------	----	---------	----	---------

第7期(平成30年6月25日~令和3年6月28日)

理事

(敬称略・順不同)

職歴	氏名	職歴	氏名	職歴	氏名
代表理事組合長	木 村 康 雄	理事	滝 島 克	理事	井 上 佳 洋
専務理事	齋 藤 孝	〃	野 島 勉	〃	浜 中 英 治
理事	小 澤 順 一 郎	〃	野 崎 三 永	〃	富 田 光 志
〃	山 崎 靖 代	〃	羽 生 岳 史		
〃	前 田 善 一 郎	〃	師 岡 宏 文		

監事

代表監事	小 峰 望 明	監事	幡 野 芳 夫	監事	高 橋 政 雄
監事	中 島 邦 彦				

第8期(令和3年6月28日~令和6年度通常総代会開催日)

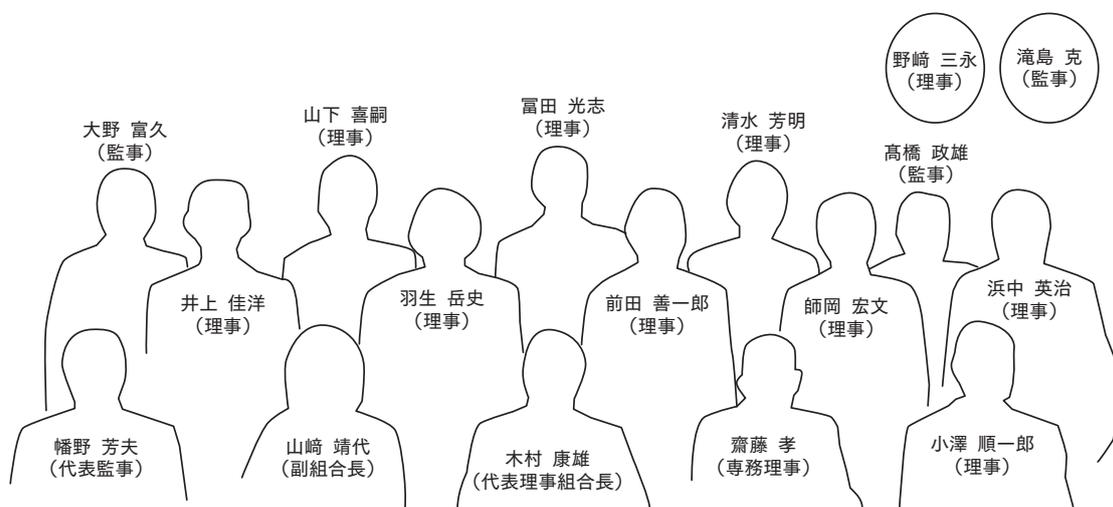
理事

(敬称略・順不同)

職歴	氏名	職歴	氏名	職歴	氏名
代表理事組合長	木村 康雄	理事	野崎 三永	理事	富田 光志
副組合長	山崎 靖代	〃	羽生 岳史	〃	山下 喜嗣
専務理事	齋藤 孝	〃	師岡 宏文	〃	清水 芳明
理事	小澤 順一郎	〃	井上 佳洋		
〃	前田 善一郎	〃	浜中 英治		

監事

代表監事	幡野 芳夫	監事	大野 富久	監事	高橋 政雄
監事	滝島 克				



20周年記念式典・記念講演会開催

令和5年4月12日に秋川キララホールにて、20周年記念式典&講演会を開催しました。



記念式典の様子

1. 記念式典・記念講演会

(1)日 時 令和5(2023)年4月12日(水) 13:30～16:00

(2)場 所 秋川キララホール(東京都あきる野市)

(3)次 第

第一部 記念式典 13:30～15:00

①開会の辞 副組合長 山崎 靖代

②組合長挨拶 代表理事組合長 木村 康雄

③来賓祝辞

④来賓紹介

⑤感謝状授与

⑥合併20年のあゆみ紹介 専務理事 齋藤 孝

⑦閉会の辞 代表監事 幡野 芳夫

第二部 記念講演会 15:00～16:00

①演 題 「森林環境譲与税と茂木町の取り組み」

②講演者 栃木県芳賀郡茂木町 町長 古口 達也

2. 来賓者

(敬称略・順不同)

団体名	役職	氏名
東京都産業労働局農林水産部	部長	築田 真由美
全国森林組合連合会	代表理事会長	中崎 和久
衆議院議員		井上 信治
東京都議会議員		田村 利光
東京都議会議員		森村 隆行
東京都議会議員		伊藤 祥広
東京都議会議員		清水 やすこ
青梅市	市長	浜中 啓一
あきる野市	市長	中嶋 博幸
日の出町	町長	田村 みさ子
奥多摩町	町長	師岡 伸公
八王子市	副市長	駒沢 広行
檜原村	副村長	八田野 芳孝
公益財団法人 東京都農林水産振興財団	理事長	岩瀬 和春
農林中央金庫 関東業務部	部長	黒川 勝博
東京都産業労働局森林事務所	所長	龍野 功
東京都環境局多摩環境事務所	所長	近藤 豊
東京都水道局水源管理事務所	課長	川植 真希
多摩木材センター協同組合	専務理事	柴田 修一
東京都治山林道協会		
一般社団法人 東京都森林協会	代表理事会長	三谷 清
東京都山林種苗緑化樹生産組合	前組合長	石川 清
林業・木材製造業労働災害防止協会東京都支部	事務局長	岩間 浩一

3. 感謝状贈呈者

東京都森林組合の発展に貢献された以下7名の方々に感謝状を贈呈いたしました。(敬称略・順不同)

No.	氏名	職歴	No.	氏名	職歴
1	小峰 幸憲	前代表理事組合長	5	中島 邦彦	元専務理事、元理事、元監事
2	黒山 儀一郎	元副組合長	6	青木 庸夫	元理事
3	清水 久巳	元副組合長、専務理事	7	小澤 順一郎	理事
4	志茂 忠昭	元理事、副組合長			

4. 来場者

ご来賓	22名	招待者	84名
-----	-----	-----	-----



感謝状贈呈の様子



記念講演会の様子

式典に際し、企画・準備・運営を職員一丸^{いちがん}となって取り組みました。



今後とも、東京都森林組合へのご理解、ご支援を切にお願い申し上げます。

あとがき

東京都森林組合合併 20 周年という節目の年を迎え、ここに記念史を発行できることは、偏に関係者皆様のご支援の賜物と衷心より御礼申し上げます。

合併当時は、異なった個々の組合がこれまで実施してきましたそれぞれの仕事の進め方や経理事務などを合併後の担当者が喧々諤々となる中、東京都森林組合としての方向性や取り組み内容等を協議調整し新たな希望を持ち動き始めました。

その後の動向につきましては、合併当時から発行させていただきました「杣のみち」や記録写真、主な事業等の資料に加え関係者皆様のご協力をいただき、職員によります「合併 20 周年記念プロジェクトチーム」を立上げ本記念史の「20 年のあゆみ」を製作させていただきました。

この 20 年を振り返ってみますと、合併当時の関係 6 市町村との連携を強化する「東京都森林組合市町村連絡協議会」の発足や平成 18 年度から開始された、東京都の「スギ花粉発生源対策主伐事業」など新たな事業対応を図りながら、当組合の固有の課題や目標等を定めた「中期経営計画」を 5 年毎に作成し、近年では、ドローンによる資材運搬やクラウドシステムの導入など時代に即した対応を実施してまいりました。

「20 年のあゆみ」によりこれまでの取り組みや実績などがお伝えできたかは不十分な点が多々あるかとは存じますが、今後も私たちは先人から受け継ぎましたこの素晴らしい森林を整備し活用するとともに、次世代に引き継ぎ、30 年 50 年先を見据えた事業展開を図ってまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

令和 5 年吉日

専務理事 齋藤 孝

杣のみち号外

東京都森林組合 合併20周年記念史

令和5年6月発行

発行 東京都森林組合
〒190-0182 東京都西多摩郡日の出町平井2759
代表電話 042-588-7963 FAX 042-597-5263
<https://tokyo-sinrin.com>

印刷 株式会社アートプレス
〒170-0013 東京都豊島区東池袋5-6-14
電話 03-3984-4651